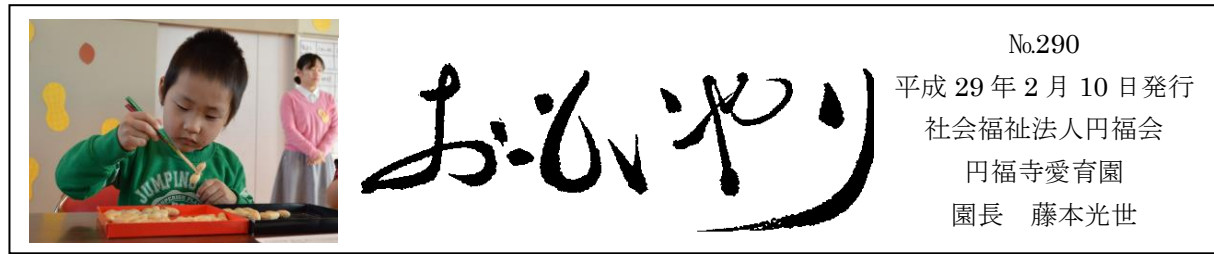


第7回箸ピー大会と雪合戦大会の特集号です。写真は箸ピー競技に挑戦する年中さん



第7回 箸ピー大会

園長 藤本光世

1月29日に国際箸学会から小宮山会長・大泉審判長ほか2名の方においでいただき、通明小学校校長先生と先生方そして篠ノ井東中学校の校長先生、西横田区の役員の皆様をお迎えして第7回箸ピー大会を開催することができました。おいでくださった皆様、ありがとうございました。

11月のディズニーランド・東京研修が終わると食事の時に私の周りにいる子どもたちが早く箸ピーの練習をしよう、早くやりたいと、すぐにでも始めたい様子でした。12月になって、練習が始まると、みんな一生懸命です。練習の態度はルールを守り、豆を落としてしまっても投げ出す子はおらず、普段の生活ではあいさつやおまいりの声はさらに大きく響き、箸ピーの効果があちこちに出て、子どもたちが立派に成長していることが感じられました。とてもうれしいことです。(写真は、毎日の記録のグラフを見ている子どもたち。毎朝グラフの周りに子どもたちが群がっていました。)



準備や後片付け、そして個人戦から団体戦に移る時の机や椅子の移動など、子どもたちの動きは積極的で素早く、ここにも子どもたちの成長の姿がありました。小さな子が、自分より大きな椅子を運んでいました。こんな子どもたちが生まれていることを、愛育園の誇りに感じました。



開会式の後、競技が始まりました。始まる前の、子どもたちの集中している姿に、感動しました。その姿はとても美しいと思いました。写真をご覧になってください。この子は小学1年生です。甘えん坊で、おんぶをせがんだり、手をつないだり、くっついてきます。その子がこんなにも美しい集中している姿を見せてくれました。ほかの子も同じでした。そして、競技の時の集中した姿、これもとても美しいです。箸ピーはた

った1分間のゲームですが、集中しないと良い記録は出ません。写真をご覧になってください。

おいでになっていただいた国際箸学会の関係者の方がフェイスブックに、箸ピー大会を紹介してくれました。

『昨年を除いて、ここ数年続けてお邪魔していますが、行くたびに円の子どもの成長が感じられ、おまけに元気も分けてもらえるので、行くのが楽しみになっているイベントです。



大会は回を重ねるごとにみんなの記録が伸びていて、到底私たちが追いつかないレベルまで行ってしまいました。12月から毎日コツコツと練習を重ねているのですから、ぶっつけ本番の自分はないっここりません。

今回の勝者は、昨年も優勝した6年生の女の子。いやー、彼女の強さと集中力はすごいです。見習わねば…』と書いてくれました。



こんな風にわかっていただけると、うれしい限りです。

箸オリンピック出場選手は2月2日の夜のおまいりで発表しました。昨年選ばれなかったSさんは、今年は堂々の出場です。みんな、一緒に練習してきた仲間が、選ばれなかった子の分まで頑張ってくれるだろうと、そして選手は、選ばれなかった子の応援を受けて頑張ってくれるだろうと、晴れやかな発表になりました。拗ねたり、反発したり、泣いたりする子は一人もいませんでした。

2月4日の箸オリンピックではどんな態度で競技してくれるでしょうか。楽しみです。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

(2月4日の箸りんぴっくでは、上位6人を当園の子どもたちが占めました。補欠で連れて行ったN君は団体戦で急造の愛育園Bチーム(練習していない私がブレーキになりました。)のアンカーを務め、地元チームとの接戦を大歓声の中で、たった豆二つ(1秒差)で制して、きっと良い経験と自信になったと思いました。楽しい箸りんぴっくになりました。箸りんぴっくの様子は3月号でお知らせします。)

冬の行事

副園長 青谷 幸治

冬の行事といえば、愛育園では箸ピー大会。今年で7回目を迎えました。お箸の使い方、食事のマナーなど規則正しい生活習慣を学ぶひとつとして取り入れてきた行事でした。しかし今は、立派な競技となり子どもたちにも浸透し、2ヶ月間の練習を積んで競技に挑んでいます。7回も重ねると地域や学校関係にも広く知られ今年は30名ほどの来賓の方にも来ていただき競技に参加していただくことができ大変盛り上がりました。

競技で優勝をすることはもとより普段の箸使いや食事のマナー、何よりスタート前の集中力が子どもたちの心を鍛え、育てているなと感じました。大会当日に自己ベストを更新する子どもたちが増えたことを思うと本番に強くなった子が増え、前向きに取り組む姿が愛育園の生活を変えていると思いました。この箸ピー大会には子どもの心を育てる多くの要素があることも改めて感じました。そして、今年は箸ピー大会にプラスしてもっとアクティブに冬を過ごしたいという思いから飯綱高原で行われたエキサイティングスノーバトル(雪合戦)に初参加しました。数週間の練習でしたが、子どもと職員が一緒になってルールに則って、戦略を考えチームワークを高めてきました。本番は1勝1敗で予選敗退でしたが、また来年につながる大会でした。雪玉を作るところから、フォワードとバックスの息の合った攻撃など私たち大人も童心に返って、子どもたちと楽しめる行事でした。またレクでなく本気で競技として取り組んでいるチームが多いため、来年は本選(全国大会)に向けて早めの練習を計画したいと思いました。冬の行事が毎年地味で、練習や頭を使ったり、チームワークを作るような行事はありませんでしたが、箸ピー大会につぐ冬の行事を作れたことも大きな収穫でした。

冬の行事を盛り上げ、箸ピー大会は国際大会、エキサイティングスノーバトルは全国大会に行けるように子どもたちと準備していきたいと思います。

第7回箸ピー大会

主任保育士 石崎 早織

第7回箸ピー大会が29日に開催されました。子ども達は12月からほぼ毎日練習に取り組み、自己ベストを更新してきました。1個でも多く記録を残そうと一生懸命取りくんでいる姿を見るだけで、子ども達の箸ピーへの思いが伝わってきました。

大会の準備をする中で、今年の選手宣誓は誰にお願いをしようか……。と考えていた所、27日に8歳の誕生日を迎えたTさんをお願いをしてみることにしました。人前で発表することが苦手なTさんですが、誕生日を迎え一つお姉さんになったから、きっとできるはず!!と思い、Tさん

(平成29年2月10日発行 月刊「円福」487号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

に「選手宣誓やってみる?」と話をすると「うん!」と元気な返事が返ってきました。それから2日間かけて、選手宣誓で言うセリフを暗記し、なんとか覚える事が出来ました。前日は全体のリハーサルもあり、Tさんの発表する時が来ました。名前を呼ばれた瞬間、一瞬で緊張してしまったようで、泣いてしまいました。そんな姿を見て、まだTさんをお願いをするのは早かったかな……。と私自身も不安になりましたが、でもなんとかやり切ってほしいという思いもあり、「絶対出来る」「大丈夫」とTさんを励ました。小学生の女の子たちも一緒になってTさんを励まし、又夜の時間もみんなでTさんの発表練習に協力してくれたと聞き、すごく嬉しい気持ちになりました。当日は緊張しながらも一生懸命覚えたセリフを言う事ができ、終わった後は今度は安心して涙を流していました。でもTさんの表情は「やりきった」という清々しい表情をしていました。きっとTさんの自信になったと思います。今回の箸ピーを通して、勝つ事だけではなく、仲間を励まし相手を思いやる気持ちだったり、勇気を出せば何でもできる、という事を子ども達も又さらに学ぶことが出来た行事になったよう思います。

第7回箸ピー大会

あおぞら保育士 富沢正樹

1月29日、第7回箸ピー大会がありました。

今年で第7回となる箸ピー大会ですが、年々レベルが上がり続けている事にとっても驚きを感じます。最初の頃の大会は、園で唯一1人だけ200個以上の記録を出せる子がいて、他の子は全く敵わないような状況だったのですが、その後、大会の度に200個以上の記録を出す子が増えていき、ついには、300個を記録する子も出てきて、今では、250個以上の記録が出ないと戦えないと言うくらいに全体のレベルが上がり続けてきています。

今年、大会の約2か月前から毎日練習をしてきました。練習は、本番さながらにシーンと張り詰めた空気の中で懸命に豆を運ぶ集中力に満ちた空間となり、この「箸ピー」という競技は、箸使い、集中力、諦めない心などを養っていくのに素晴らしいものだと感じます。そして、大会を重ねるたび、練習を重ねるたび、明らかに成績が上がって行く事を自分達自身が感じられる事が本当に良いと思います。大会前日には、会場セッティングなども全員で協力して作り上げて、競技以外の所でもがんばることができており、最後の練習も、なにやら椅子の座り心地まで確認したり、机の高さまで気にしている子がいたり、入念に準備をしていました。

大会当日は、国際箸学会の方や、小学



校、中学校の校長先生、担任の先生、地域の方々も大勢いらしてくださり、子ども達は、緊張の中、競技を開始しました。去年まで、練習では良かったのに、本番では力が出せなかったという様子もありましたが、今年は、大会本番で自己ベストを出したり、勝負強さが随所に見られました。きっと毎日本番さながらに練習を積んできた事や、箸ピー以外の普段の生活をしっかり送ることが本番で力を出し切れるという事を理解して日々の生活も頑張ってきた事が理由だと思います。

今年の箸ピーキングは、小学6年生のHさんで第6回に引き続いての連覇を果たしました。とても速くて今年も307個の記録を出しましたが、今年もHさんの独走態勢を脅かす児童が何人もいましたので、来年はもっともっと白熱した戦いになるぞ！と今から楽しみにしています。

当日、御来園下さった皆様、お忙しい中ありがとうございました。来年も是非、子ども達の様子を見に来ていただき、また、一緒に御参加ください。

箸ピー大会

まごころ保育士 小林礼

張り詰めた空気の中そこにいる全員が真剣な顔で箸を持ちます。「よーい、はじめッ！」の合図と同時にものすごい速さで落花生が箸でつかまれ宙を飛び交います。愛育園に来てこの“箸ピー”という競技を私は初めて知りました。「豆を箸で移動する」という一見なんてことのない一つの動作に思いますが箸ピーに取り組む園の子ども達の表情はまるで競技開始直前のオリンピック選手かと思うほどキッと険しく、真剣です。正直な気持ちを申しますと、甘く見ていました。豆を箸で運ぶ…そんな気楽なものではありませんでした。これは本物の競技であり0.1秒単位で勝負が決まる自分との戦いです。練習の時点から感じました。隣の子が自己ベストを更新し喜ぶ姿を横目に、昨日の自分を越えられなかったと目にいっぱい涙をためて悔しがる子どもの姿を何度も見ました。そんな真っ直ぐで一生懸命な姿を見ていたからこそ大会当日、審判をする自分の手が緊張で震えたのかなと思います。喜ぶ顔、悔しがる顔、色々な表情を見ましたが、一番多かったのは驚きの表情だったかなと思います。大会当日に自己ベストを大幅に上回る子が何人も出ました。日頃の練習で集中力を高めていた成果がここで出たのだなと感動しました。日本人にとって箸は一番身近な道具



ですので小さいうちから慣れ親しみ使いこなす機会があるということはとても良いことであり使い方も身に付けながら集中力と諦めない心を育てていくことのできる箸ピーは素晴らしい競技だと心から思います。次に待ち受けるのは箸オリンピック。出場メンバーがいよいよ発表されます。出ることのできる子はみんなを代表し練習の成果を十分に発揮してきてほしいと思いますし、残念ながら出られない子は来年こそは！と次のチャンスに向け気持ちを高め、応援に徹して欲しいなと思いま

す。第7回箸ピー大会、ほんとうに良い大会でした。ありがとうございました。

箸ピー大会

まごころ 渡邊 梓

箸ピー大会に向けて12月より練習を重ねてきました。箸でピーナッツを移動させるというとても単純な競技ですが、見るのとやるのでは大違いです。息をするのも忘れるくらい集中して、幼児から大人まで前のめりになって取り組んでしまう、そんな競技です。練習を重ねると、記録が伸びる日もあれば伸びない日もあり、ガクッと記録が下がってしまう日もあります。その悔しさから泣いてしまう子どももいました。大会当日は、国際箸学会の方をはじめ、地域の方や、学校の先生方が多くご来園されました。練習とは異なり、観客がかなりいる中での本番でしたので、みんな練習通りの成果が出せるかな…と心配でしたが、何の問題もありませんでした。「やったー！新記録だ！」と喜ぶ子がいるほどでした。また、子ども達の集中力に驚かされてしまいました。箸ピーキング決定戦、団体戦にうつると今度は心強い応援団に変わります。大きな声援が会場に響き渡り、会場が一体となりました。特に、団体戦での応援が最高でした。1位、2位、3位が決まり残る1チームは枝豆チーム、最下位だと腐ることなく一生懸命にピーナッツを運ぶ姿、それを見た他のチームが「えーだまめー！えーだまめー！」と大きな声で応援している、とても美しいなと思いました。『ルールを守って、楽しく、一生懸命に』という約束が当たり前のように守られていて、みんなで喜び、みんなで感動を分かち合えるそんな愛育園がとても素晴らしいと感じました。第8回はどんな感動を味わえるのか今から楽しみです。

第7回 箸ピー大会

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

1月29日、第7回箸ピー大会が開催されました。今年も12月の頭から練習を始めました。子ども達は、毎日とても意欲的に練習に励んでいました。そして、どんどん記録を更新していく姿にとても驚かされました。時には、思うように記録が伸びず、悔し涙を流す姿もありました。子ども達の練習を見ていると、利き手で無い方の手でも、箸をきちんと持ち、難なくピーナッツを運んでいるので、自分にも出来そうだな、と錯覚していましたが、実際にやってみると、思うように手が動かず、ピーナッツを運べず、かなり難しかったです。実際にやってみて、子ども達が200～300個近くピーナッツを運んでいる事がどれだけすごい事かを実感しました。

当日は、箸ピー公認審判員の方、箸学会の方、学校の先生、地域の方など、沢山の来賓の方がいらっしや、いつもとはまた違う緊張感の中で、箸ピー大会が行われました。緊張しながらも、子ども達の集中力はものすごかったです。本番で最高記録を出す子はなんと10人もいました。子ども達の底力はすごいな、と思いました。

箸ピーで培った、正しい箸の持ち方や集中力を日々の生活にも活かしてほしいな、と思います。

箸ピー大会 児童感想

1月29日に第7回箸ピー大会が行われました。去年は総合優勝し、その時は299個であと少しで300という所でした。なので今年も優勝できるように受験や塾もあつたりしながら一日一日丁寧

に練習しました。ライバルのY君やK君、SちゃんやNちゃんがどんどん新記録を出していくので、「今年は優勝できるかな・・・」と不安もありました。そして今日をむかえてドキドキでいっぱいでした。私はデモンストレーションの役にも選ばれ、みんなの前で右手を1分計りました。緊張のあまりいつもの記録より50個も下がってしまいました。ですが、「これは練習だからラッキー」と思い本番の個人戦を迎えました。緊張は一気に飛んで、右も左も順調に進み、なんと306個でした。ピーナッツを落としてしまいましたが、慌てずにゆっくり箸で拾いました。今日は担任の先生も来てくれ、褒めてもらえ嬉しかったです。ですが、Nちゃんも最高記録の303個、Sちゃんも294個という結果でとてもビックリしてしまいました。KING決定戦でも、ライバルの4人は全員いて、とても緊張してしまい、ピーナッツを一つ落としてしまいましたが、最後まで諦めずに続けられました。負けず嫌いで良かったなーと思いました。個人戦の結果は高学年の部で優勝して、308個で総合優勝出来ました。2連覇出来るとは思っていなかったもので、嬉しかったです。また来年も中学生になるので、中高の部の優勝と3連覇目指して頑張りたいです。そして箸の持ち方も完璧にして、普段の生活でも心がけて来週の箸りんピックに出場したいです。(小6 H・W)



1月29日に第7回箸ピー大会がありました。今年の箸ピーの練習は去年よりも早く始まり、約2カ月間練習をしてきました。最初は200個からのスタートでしたが、時々200個よりも下でイライラしてしまうこともありましたが、でもみんなが一生懸命練習している姿を自分も見て、私も頑張らないと・・・と思うようになりました。練習の中で最高記録が出た時が一番嬉しかったです。時には練習をめんどくさいと思う時もありました。でも今思うと最後までがんばってよかったと思いました。そう思えたのは大会当日の事でした。

当日はいつもの調子が出ず、1回目は212個、2回目は219個で終わってしまうという結末になり、すごく悲しかったです。その後のKING決定戦では思った通り出れず、出場している人を全力で応援することもできずにいました。でも気持ちを切り替え団体戦で頑張ろうと思いましたが、ピーナッツを落としてしまい結果は3位でした。とても残念でした。でもアンカーのY君が頑張ってくれて嬉しかったです。閉会式が始まり、結果発表になりました。今回は初めて特別賞があると聞き、誰になるのかな・・・と想像していたら自分の名前が呼ばれました。その時は「えっ」と思いとても驚きました。園長先生からメダルをかけてもらい嬉しかったです。あの時練習を途中で辞めず、最後まで頑張ったよかったと思いました。(中2 Y・O)

今日は第7回箸ピー大会がありました。

去年の12月1日から練習を始めました。第6回大会ではキング決定戦にギリギリ出場する事ができました。ですが、キング決定戦に出場しても緊張してしまい、本来の力を出せずに終わってしまいました。今年も、キング決定戦に進むことができたのですが、去年より緊張することがなく、本来の力を出し切ることが出来ました。最後の最後で手が震えてしまい、上手くピーナッツを運ぶことができなかったけど、かなりいい記録を出すことができました。

団体戦では、かなりの僅差のバトルになりました。僕のピスタチオチームは2位になってしまいましたが、最後の方は3チームが接戦となり、アンカーの人はプレッシャーのかかる中、冷静な豆運びをしていてすごいと思いました。

来年もキング決定戦に出場して、今度は総合3位入りを目指して行きたいです。高1 A.H

今日は第7回箸ピー大会がありました。たくさんの方がきたので、とても緊張しました。僕はAグループで2回挑戦しました。二回目で283個の記録を出せて、キング決定戦に出れました。キング決定戦は記録が落ちて優勝できなかったけど、がんばりました。でもくやしかったです。

団体戦では、ぼくはアンカーでした。みんな速くて3位だったけど来年は1位になりたいです。今度、箸りんピックがあるので選手に選ばれたいです。そして、今年は、低学年の部で優勝できたけど、来年は、もっと速くなってキング決定戦で優勝したいです。小3 Y.Y



エキサイティングスノーバトル 2017 IN 飯綱高原 保育士 佐々木 弘観

1月22日に大座法師池にてエキサイティングスノーバトルが行われました。愛育園は職員含めた10名で初参戦してきました。

全員が初めての事なので練習をするのにも、ルールの確認から始まりました。細かいルールに頭にいくつも？マークが浮かぶ子ども達。それでも手探りでやっていくうちに少しずつ理解することができ、また、大会に出ない他の子ども達も夜遅くまで練習に参加してくれました。はじめはぎこちない動きでしたが、回数を重ねるごとに連携をとれる様になり、それぞれが「今、この人はこう動いたら助かるかな？」などチームのために考えて動く姿が増えてきました。

大会当日。愛育園は開会式にて選手宣誓をまかされており、代表としてI・Tくんが勤めてくれました。全力での選手宣誓に会場からは「すごい」といった声が沢山聞こえ、私自身も心が揺さぶられる思いでした。

試合前の雪球作りでは、朝早いせいか、雪がさらさらで全く固まらず全員が焦りながらも、雪を運ぶ人、踏み固める人、成型する人、それぞれ任された分担を全力でやり遂げ、何とか時間内に作る事ができました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

第1回戦 3セットマッチのうち1セット目は皆緊張でガチガチに固まり動けず、あっという間に負けてしまいました。その後みんなで集まり「練習してきた自分達を信じて頑張ろう!!」と互いに声を掛け合うと、みるみる動きが良くなりその後はなんと2連勝。この勢いで!・・・とはいかず、2回戦目は相手のプレーに歯が立たず負けてしまいました。

その後の子ども達からは「悔しい。」「もっと練習したい。」「来年こそは!」という声が聞こえ、闘志に燃え全員で来年リベンジすることを誓いました。この行事では部活で青春をしている様な一体感がありました。みんながチームのために何ができるのか必死に考え、1から皆で作りに上げていくものでした。雪合戦が終わった後、来年の雪合戦の作戦を考えて、教えてくれる子が何人もいました。やはり皆悔しかった様です。来年は更なるチームプレーで、挑戦していきたいと思えます!!



エキサイティングスノーバトル IN 飯綱 2017 主任保育士 石崎 早織

愛育園は年間を通して行事が充実しており、4月から11月までは特に忙しく子どもと日々全力で取り組んでいます。しかし冬のこの時期になると、行事の数も減ってしまう為、毎年何か出来ることはないかな・・・と先生方とよく話をしていました。そんな時に今回参加させていただいた雪合戦の大会を知り、中高生の男の子を中心としたチームを作り参加することになりました。初めはルールもわからず、「ボックス」や「フォアード」など知らない言葉がたくさん出てきて、私も子どももわからない事ばかりでした。しかも今回は監督もやらせて頂き、こんな頼りない自分で大丈夫かと不安に思っていたのですが、日々の練習を重ねていくうちに、チームが一つになっていくのがわかりました。試合の最中は監督しか指示が出せないで、私が声を出すたびに試合に集中しながらも耳を傾け、一生懸命やってくれました。大会当日。出発する時間が早く5時半には朝食です。その前にお昼に食べるおにぎりも作らないといけません。チームの中で手分けをしておにぎりを作る人、荷物も積み込む人と役割分担を作りましたが、この大会に参加しない高校生のKさんにもお手伝いの声をかけると快く引き受けてくれました。

また雪合戦の大会では各チームで旗を準備しなくてはなりません。どんな旗にしようかと考えましたが、やはり「円福寺愛育園」とわかるものにしたいと、愛育園の園旗を規定のサイズにした物を全て手作りで作ることにしました。高校生のSさんに声をかけ相談すると快く



(平成29年2月10日発行 月刊「円福」487号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

引き受けてくれました。完成した旗をみんなに披露するとその出来具合に歓声が上がりました。また日々の練習でもたくさんの人に協力してもらいBチームを作ってもらったおかげで、試合と同じように練習することが出来ました。

このように一つの行事をとってもたくさんの人が協力し、選手でない人たちの陰ながらの支えがあったからこそ、大会にも臨むことが出来ました。大会に出ればもちろん勝ちたいです。でも勝つ事だけではなく、みんなで協力することや、助け合う事、感謝することをさらに学びました。また愛育園の良い所をまた強く感じる行事になりました。

大会の結果は1勝1敗。試合で負けるとやっぱり悔しかったです。でも最後まで諦めることなく子ども達は頑張ってくれました。この悔しさを忘れず、また来年頑張りたいと思います!!

雪合戦 児童感想

1月22日に「エキサイティングスノーバトル in 飯綱高原」という雪合戦の大会に参加しました。この日のために私たち「チーム円福寺愛育園」は1週間程前から練習を始めました。初めのうちは人数が少なく思うような練習ができませんでした。しかし園の他の人たちが、Bチームを作り、練習をサポートしてくれたおかげで、本番を想定した練習ができるようになりました。さらに皆で協力して室内でも練習ができるように準備もしました。色々な人の支えがあり、本番前に素晴らしい練習ができてとても良かったです。

大会前日、ミーティングで大会の組み合わせが発表されました。強いチームとの組み合わせになり、弱気になっているチームを強気にしたくてその時に、自分勝手な発言をしてしまいました。その後、先生と勝つことがすべてじゃないことなど話をしましたが、その時の自分は結果をのこさなければならぬこと、勝ちにこだわる考えを捨て切れませんでした。

大会当日、愛育園は選手宣誓をまかされていたため、私がチーム、選手代表として宣誓をしました。その宣誓に多くの人が感動したと聞き、とても嬉しくなりました。

1回戦は苦戦しながらも、なんとか勝つことができ、いい試合ができた事で皆に自信がついた様でとてもいい雰囲気でした。ですが、2回戦目はあっさりと負けてしまいました。完敗でした。負けた瞬間に頭が真っ白になり、「皆が消極的になってしまったらどうしよう。」なんて声をかけたらいいか分かりませんでした。そんな時チームの皆から「楽しかった。また皆でやりたい。」「来年こそは」という声が聞こえました。動揺しました。それは勝たなければ得られない言葉だと思っていたからです。この時先生が言っていた事が実感できました。理解はしていたつもりでも、勝ちにこだわりすぎ



で見えていませんでした。ですが、負けることでその答えに気付くことができました。

この行事を通して大切な事を学び、みんなで成長できたことがよかったです。

それでもやっぱり負けたのは悔しいので、鍛えなおして来年挑戦したいです。(高3 I・T)

1月22日、飯綱で雪合戦がありました。愛育園ではそれに向け練習をしてきました。最初に練習した時はとても怖くて、ただ立っているだけになってしまいました。でも練習を重ねるごとに「ここに人が居るから球を投げなきゃ」と少しだけわかるようになり、とても楽しかったです。私は選抜メンバーではありませんでしたが、「私も大会に行きたい」と思うようになりました。そんな時に石崎先生と一緒にいくかを聞いてくれ、すごく嬉しく、楽しみでした。当日は朝早く起きて5人でおにぎり作りをしました。飯綱はとっても寒くて、でも空気がきれいだと思います。開会式の選手宣誓は愛育園のT君がやりました。すごく堂々としていて、コートのお雰囲気が変わったのがわかりました。試合では園のチームの一人がさっと駆け出し、敵のフラッグを取りに行っていました。その光景は今でも目に焼き付いています。メンタルが強くないと出来ないと思いました。園の選手の頑張る姿を見て、私もこれからの生活をもっともっと頑張らなくちゃと思いました。

(高1 S・Y)

『正月行事』

まごころ 竹内早季

大晦日から元旦にかけて年越しを、帰省せず園に残った子ども達と過ごしました。大晦日、私は主に小学生についていましたが、談話室を暗くしてスクリーンを設置して映画鑑賞をしたり、温泉に行つてのんびりしたりと穏やかに過ごすことができました。他の子どもたちがどんどん帰省していくのを言葉にはしなくても寂しいなという気持ちを表しているのを見て、その気持ちを忘れさせるくらい楽しい年末年始にしてあげようという気持ちになりました。普段なかなか1対1で遊べないのですが、1年生の男の子と二人でかるたやトランプをすると終始楽しそうに笑っていて、私もうれしくなりました。また、夕飯や元旦の食事なども中高生が積極的に手伝ってくれて、小学生もおいしい、おいしいと喜んでいました。職員と子どもたちで協力しながら穏やかな時間を作ることができたと思います。



元旦には6時に起床して横田神社へ初詣に行きました。まだ薄暗

い中、前日遅くまで起きていたのに子どもたちは元気いっぱい、「2回礼するんだっけ?」「3回手を叩くの?」などお参りの仕方を練習していました。それぞれ新しい1年を清々しくスタートできたのではないかと思います。私も負けなくらいまた1年間成長していきたいと感じました。

調理室だより

調理員 宮沢 まき江

新年も明け、改まった気持ちの中、1月7日、日本の行事である七草粥を朝食で作りました。「セ

リ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」この七草を入れ、更には年末園内で子どもたちと共についた餅を入れました。

サケの焼物、切り干し大根の煮物をおかず頂きました。数人の児童はお粥が苦手と時間内に食べ切れず悪戦苦闘していました。

1月11日は鏡開きということで円福寺に供えられた鏡餅を園長先生が持ってきてくださ学校のみんが揃って頂けないので、14日(土)のおやつに頂きました。小豆を炊いてお餅を焼き、鍋いっばいのお汁粉はアツという間に完食してくれました。

沢山の子どもたちがおかわりをしてくれ満足そうな笑顔に作った側にもほっこり笑顔が出来ました。今年も1年、色々な行事ごとにそして日々の食事を皆様に喜んで頂けるように調理では頑張っていきたいと思います。

平成28年度社会福祉施設等一般指導監査

庶務 石黒玄章

1月27日(金)当園に長野県の指導職員2名がお越しになり、指導監査を受けました。子供のケースから保健衛生、調理の栄養から、職員の出勤記録、防災関係、金銭の出納まで多岐に渡って事前準備を行いました。日頃の積み重ねながら、改めて確認してみると記載漏れなどもあり、当日を迎えるまで落ち着かない日々を過ごしました。

当日は、園長先生が当園の案内をおこない、一緒に園内を視察しました。県の指導員の方は、安全経路や子供の部屋の様子を視察しました。一緒に昼食をとった後、午後からはケース記録や小遣いの記帳、防災の提出資料などを確認し監査は終了しました。

講評として概ね良好な結果でしたが、記録の残し方に園のやり方と相違点があるなど課題も頂戴しました。今後は、今以上課題も含めにしっかりと対応して行きます。

しめ縄集め・どんど焼き

保育士 近藤 典雄

1月9日新年明けて一番最初の地区行事としてしめ縄集めとどんど焼きがありました。しめ縄集めは朝9時に集まって小学生皆で正月飾りのしめ縄や達磨さんをトラックの後ろについて横田地区全体を歩いて回って行きました。高学年の子は我先にと一軒一軒見て走って集めたり、低学年の子はそれ見て高学年の子と協力していました。沢山の正月飾りや達磨さんを集めたら今度は土手に行って集めたものを組み立ててどんど焼きの準備に取り掛かります。正月飾りを積んでいたり、達磨さんを縄で結んだり大きな櫓が完成しました。

夕方になって今度は一人ひとりお餅をつけた竿を持ってどんど焼きに向います。櫓に火がついていっきに燃え上がって行きました。子供たちも自分たちのお餅を焼いて一年の成長や健康を祈って美味しく食べていました。今年も一年更なる成長を願っています。

